

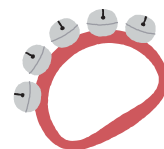


とうきょう すくわく プログラム

こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

とうきょう すくわくプログラム

ってなに？



「とうきょう すくわくプログラム」は、幼稚園や保育所において、
子供たちが好奇心や興味を持って、わくわくしながら遊び、
学べるよう応援する取り組みです。

取り組みを通じて、子供たちの自己肯定感や思いやりといった
豊かな心の育ちをサポートしていきます。



夢中になって遊び学ぶ

すく
すく

すべての乳幼児の

伸びる・育つ

×

わく
わく

好奇心・探究心

を応援する幼保共通のプログラム

楽しく、みんな一緒に!



とうきょう すくわくプログラム

はこちらからご覧いただけます。

とうきょう すくわくプログラムは、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）との協定の下、東京都の「とうきょう すくわくプログラム推進事業」として策定したものです。



「非認知能力」の育成等、 乳幼児の成長・発達をサポート



好奇心を持つ
きっかけを増やす

考えを広げる

考えを深める

すくわくプログラムはどんなことをするの？

安全安心な環境のもと、子供たちが興味・関心を深められそうなテーマを園で設定し、好奇心を持つきっかけを増やしたり、考えを広げ、深めたりする取り組みを行います。

テーマに関する子供たちの
考えやイメージを
引き出すための問いを考え、
素材や道具を準備し活動を行います。

テーマ例： 光 色 自然 音 泥遊び 絵本 など

例
〇〇って
なあに？



楽器を使い
音の振動を
感じるなど

例：音をテーマとした活動の様子

豊かな心の育ちを応援

乳幼児期は、
「非認知能力」を培う
大切な時

非認知能力とは

自己 にかかわる
心の力

- ・自尊心
- ・自己肯定感
- ・意欲
- ・粘り強さ

社会性 にかかわる
心の力

- ・心の理解能力
- ・共感
- ・思いやり
- ・協同性

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名：明日葉保育園相生園
施設所在地：大田区西蒲田 6-18-8
法人名：株式会社あしたばマインド

1. 活動のテーマ「食」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

今年度より法人グループ会社より毎月、水耕栽培で育てた野菜が届き給食のメニューに展開したり、食育に活用したりすることになった。例年、幼児クラスは夏野菜の栽培やグループ会社より小松菜の種をもらい小松菜の水耕栽培にチャレンジしたり、給食では世界の料理、郷土料理などバラエティ豊かな献立で子どもたちも楽しみにしたりしており、毎日降園時に給食のサンプル画像を親子で見話し合う姿もあり食に関する興味や関心が高く、「初めてのすくわくプログラムのテーマにぴったりなのでは」と感じたため。

2. 活動スケジュール

◆産地直送野菜が届く(小松菜・水菜・フリルレタス・ピーマン・リーフレタス)

- 4月 水菜・小松菜
- 5月 ピーマン・小松菜
- 6月 フリルレタス・小松菜
- 7月 水菜・小松菜
- 8月 ピーマン・小松菜
- 9月 水菜・小松菜
- 10月 リーフレタス・小松菜
- 11月 ピーマン・小松菜
- 12月 フリルレタス・小松菜
- 1月 ピーマン・小松菜
- 2月 水菜・小松菜
- 3月 リーフレタス・小松菜

届いた野菜は給食のメニューに反映。調理の様子を動画で撮影し喫食前に各クラスに展開。降園時、玄関にて iPad で動画公開。

◆その他のスケジュール

- 5月 夏野菜の栽培スタート
- 7・8月 とうもろこしの皮むき
- 6月～8月 夏野菜の収穫
- 9月 小松菜水耕栽培スタート
- 11月 小松菜栽培オンラインレクチャー
- 1月 ブリ解体ショー
- 2月 やさいのおなかくだもののおなかをみてみよう

◆郷土料理・世界の料理

- 5月 長野県 給食：ごぼとん丼・炒めいも・なます・きのこ汁
おやつ：りんごケーキ



- 6月 オーストラリア 給食：ごはん・チキンパルメザン・ブロッコリー、ポテト・ハムと豆のスープ
おやつ：バナナブレッド



8月 沖縄県 給食:ジューシー・ゴーヤとコーンのかき揚げ・もずくスープ
おやつ:黒糖レアチーズケーキ風



10月 茨城県 給食:スタミナラーメン・れんこんきんぴら・梨
おやつ:さつまいもチップス



11月 タンザニア 給食:ワリ・ムチュジ・カチュンバリ・バナナ
おやつ:マンダジ



3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・野菜の苗 ・小松菜水耕栽培セット ・プランター ・郷土料理、世界の料理紹介パネル ・模造紙
- ・クレヨン ・電子黒板 ・書画カメラ ・短焦点プロジェクター ・絵本 ・図鑑

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

◆産地直送野菜が届く(小松菜・水菜・フリルレタス・ピーマン・リーフレタス)

月	野菜	クラス	活動内容
4月	水菜・小松菜	4歳児	触ってみよう・観察しよう
5月	ピーまん・小松菜	5歳児	触ってみよう・観察しよう
6月	フリルレタス・小松菜	3歳児	触ってみよう・観察しよう
7月	水菜・小松菜	1歳児	触ってみよう
8月	ピーまん・小松菜	2歳児	野菜スタンプ
9月	水菜・小松菜	3歳児	触ってみよう・観察しよう
10月	リーフレタス・小松菜	3歳児	触ってみよう・観察しよう
11月	ピーまん・小松菜	0歳児	触ってみよう・観察しよう
12月	フリルレタス・小松菜	2歳児	触ってみよう・観察しよう
1月	ピーまん・小松菜	3歳児	野菜スタンプ
2月	水菜・小松菜	2歳児	触ってみよう・観察しよう

5月 夏野菜の栽培(3歳:ピーまん、オクラ、なす。4歳:きゅうり、とうもろこし、なす。

5歳:きゅうり、ピーマン、オクラ。)

その他、とうもろこしの皮むき・小松菜水耕栽培・非常食作り体験・サバ解体ショー・やさいのおなか
くだもののおなかを見てみよう

以下にそれぞれの活動記録写真と

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)を記入します。

夏野菜の栽培



<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり> (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- 苗選びは子どもたちの意見をもとにクラスごとに決定。決まったものをまとめて年長児が近隣の花屋さんに行き、各クラスへと届けた。
- 日に日に成長する様子を楽しみに観察している。つるが伸びたり葉が大きくなったりして行く様子を興味津々に眺め、葉の形、色の違い、ザラザラしてる！つるつるしてる！と感触の違いにも気づいていた。
- ネットや添え木は準備をしておいたが、こちらから先導することなく生長に伴い、どうしたら良いか問いかけ自分たちで調べて必要であることに気づき取り付けた。
- 真夏の暑さに苗がしおれてしまった時も元気がない様子を心配し、水が足りないのか？水だけでは育たない、栄養が必要。と肥料が必要なことにも気づき肥料を与え成長を見守った。
- 植え付け時は自分よりも小さかった苗が生長とともに自分たちの背丈を越え、実り始めると実った野菜の大きさや色、形へと興味関心が湧いていた。
- 収穫に適した大きさは？色は？自分たちで意識して収穫する姿があった。
- 収穫した野菜を給食室に届け調理してもらった。味付けもリクエストを聞いてもらい、提供してもらった。収穫の喜びを噛みしめて食べる姿が印象的だった。

とうもろこしの皮むき



＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・必要以上の援助は行わず、子どもたちのやり方を見守っていた。
- ・ヒゲの感触、皮の感触、剥くのにかかる力加減、体験を通して得られるものが大きく、皮をむき実が見えたときは喜びの声をあげる子が多かった。
- ・ヒゲの数=実の数と聞いて驚く姿があった。
- ・実がきれいにそろっている様子に自然となでたり、甘いにおいを感じたり、保育者においを嗅いでみるよう誘いの声をかける子もいた。



産地直送野菜



＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・毎月届く野菜に各学年興味津々、同じ緑でも色の違い、葉の硬さ、柔らかさ、においを直に感じ、友達や保育者と気づきを伝え合う場面もあった。
- ・断面の形に興味をもち野菜スタンプにもチャレンジした。
- ・回を重ねるごとに発展し、おもちゃの包丁で切ったり刻んだりフライパンで炒めたり、本格的なお料理ごっこに発展する場面もあった。



小松菜水耕栽培



＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

- ・例年、個人個人ペットボトルを使い栽培していたが、育ちが悪く収穫量も少なかった。子どもたちのたくさん収穫したい！の声にどうしたらたくさん収穫できるかをともに考え写真の栽培方法に決まり栽培を初めた。
- ・種まきでは掌に乗せ、慎重にスポンジへと移す姿が印象的だった。
- ・種にヒビが入り、発芽を迎えると気になってブレンダー脇に座り観察する様子もあった。
- ・水換えも自分たちで行った。方法も保育者と考え試行錯誤して保育者と協力して行えるスタイルを考えついた。
- ・青々と育つ小松菜に虫食いの跡が……。どうして虫がつくの？と疑問が湧き、自分たちで調べ、収穫前に法人グループ会社の農園とのオンラインレクチャーではその質問に答えていただき、「虫がついているのはおいしい証拠」と教えていただき、また生育状況が非常に良いことと画面を通して伝えていただいたことで子どもたちも喜び、大きな学びになった。
- ・収穫の方法も教えていただいた、葉っぱの下に手を入れ、根元からどのくらいのところまでカットするのかなど実体験を通した経験がたくさんできた。



非常食作り体験



＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

- ・袋の中のアルファ米の様子と白米の違いを意識できるように導入をおこなった。
- ・表面の質感の違い、どうして炊かなくても水を入ただけでごはんができるのか？興味津々で、栄養士の説明に耳を傾けていた。
- ・能登半島地震の記憶が子どもたちにもあったようで非常食の必要性、災害時にどのようなものが適しているのか？（火をつかわないでできるもの）などもこの体験をとおして知ることができた。
- ・また、これなら自分たちで作れる！と体験をとおして発言する子もいた。



サバ解体ショー



<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- 普段給食のメニューに出ている魚は切り身になっている。この切り身の魚はどんな大きさ?どんな形をしているのか調べてみよう。というのがきっかけで行った。
- 鯖=どうして青魚というのか、青魚を食べることによりどんな良い影響があるのかなども交えながら進めていった。
- 子どもたちの反応、自然なつぶやき、疑問を丁寧にくみ取り対話しながら進めていった。
- 包丁を入れ、血が流れると子どもたちはさまざまな反応を見せる姿があったが、「命をいただく」ことの実験を通して感じてもらったのでは。と思う。
- 捌いている給食職員の手元を食い入るように見つめ、その姿は真剣そのもの。口の中を見たい。どうやって泳いでいるの?骨はどうなっているの?と質問や疑問が尽きなかった。口の中を見せてもらおうと細かくギザギザな歯が並んでいる様子に驚きの表情を見せていた。
- 魚独特の匂い、皮や身の感触、各部位をじっくり観察することができ。後日の給食で魚が出たときは事前と解体ショーの時の話題が出ていた。

やさいのおなか・くだもののおなかをみてみよう



〈活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・解体ショーを経験し、魚だけでなく野菜や果物の中はどうなっているのだろう？という疑問が上がり、そこから活動を行うこととなった。
- ・やさいのおなか、くだものなんだの2冊の絵本を導入に使い、実際の野菜や果物の断面を書画カメラで拡大して観察。その後、各エリアに実物の野菜・果物を置き観察画を描いた。
- ・カメラを通して映し出される画像は迫力があり断面を見た気づき（葉が重なる様子、種の様子など）が自然と子どもたちから出ていた。
- ・観察画では対象物をじっくり眺め、描きこむ姿が。1種類にとどまらずエリアを移動し全種類描きこむ子もいた。
- ・グループごとに描けた観察画は園内に掲示し子どもたちだけでなく保護者へも活動の内容が伝わるようにした。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動を通して子どもたちの知ろうとする力、気づき・発見する力に、保育者側もワクワクしともに活動を楽しむことができたように思う。

子どもたち自身もった疑問や気づきに対してどのように答えを見つけ出すか、保育者側がすぐに答えを出すのではなくさりげなく必要なものを準備したり、ヒントを伝えたりすることで、自分で答えを導き出す経験ができるよう努めたことで子どもたちの達成感は大きなものになったように思う。

子どもたちの何気ない気づきや、疑問に答える形で活動が展開できたことは私たちにとっても大きな学びになりました。

次年度も子どもも保育者も楽しみながら活動ができるよう、テーマ設定・内容を考えていきたいと思います。